



Bon Voyage —東京事変—

2012年閏日。日本武道館で、あるバンドがラストライブを終えた。東京事変——メインボーカルである椎名林檎を中心に、浮雲 (guitar)、亀田誠治 (bass)、伊澤一葉 (keyboard)、刃田綴色 (drums) によって構成されるこのバンドが創り出す洒落た多彩な音楽は、孤高の存在ともいえる。今回は、彼らの新たな旅立ちにちなんで、"Bon Voyage"と題された最後の舞台を収録した映像作品を紹介する。

このライブ映像の魅力は何といってもその臨場感である。演奏中のメンバーの表情やアイコンタクト、細かな手の動き、また、会場全体をとらえた映像も楽しむことができ、まるで会場にいるかのような錯覚に陥り、少しとげとげしくもシックな彼らの音楽特有の香りが全身に伝わってくる。彼らの織り成す洗練されたパフォーマンスに湧き上がる観客の歓声。揺れる旗。激しく光の線が飛び交ったと思えば突然の暗闇。その中でスポットライトに照らされながら1人歌う椎名林檎の姿は、他を寄せ付けないオーラを放っている。薄暗くなった会場は東京事変のダークな雰囲気にも包まれる。ジャズテイストの曲でクールな印象を与えたと思いきや、淡いピンクの光に包まれたステージでかわいらしい曲を歌ったり、突然アイスクリームの歌を歌ったり。さまざまな姿を見せる彼らのパフォーマンスに気分も高揚し、自然と彼らの世界に吸い込まれていく。

また、この映像の中には、音楽番組やCD音源では見せない魅力が隠されている。例えばライブ限定のアレンジ。リリースされたCDの演奏では使用していない弦楽器や管楽器を演奏に取り入れ、より厚みの増したサウンドが鼓膜を震わせる。さらに、楽曲ごとに椎名林檎の衣装が7変化したり、慣れないフリートークにメンバーが照れを見せってしまうなど、音楽以外の一面も垣間見え、演奏中では見せない彼らの人間味を感じることもできる。

東京事変が解散した閏日から4年が経つ。しかし、彼らの音楽は今もなお聴く者に強烈なインパクトを与えつづけている。"Bon Voyage"には、そんな彼らのライブ映像でしか見られない魅力が収録されている。CDを耳で聴くだけの音楽に物足りなさを感じたとき、一度彼らの世界に飛び込んでみてはいかがだろうか。



『Bon Voyage』
東京事変

【DVD】 4,320円 (税込)
【Blu-ray】 5,348円 (税込)

2012年6月13日発売

1. 生きる
 2. 新しい文明開化
 3. 今夜はから騒ぎ
 4. OSCA
 5. FOUL
 6. シーズンサヨナラ
 7. カーネーション [inst]
- 他

はみだし
すてーじ

鼻セレブって甘い味がするよね。
⇒それって口セレブですよ。

(工・院 DJ SSK)
(僕はパフェのほうが食べたい；編)